

Hospital for Special Surgery(HSS)での留学

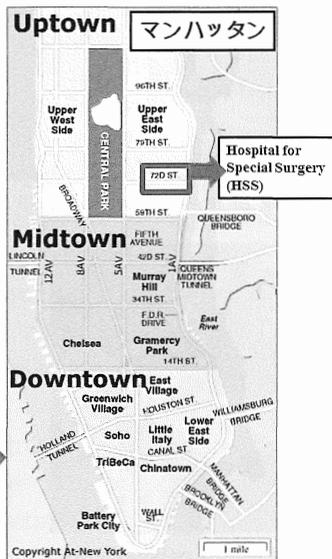
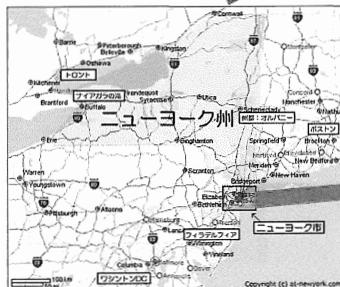
徳島大学 殿 谷 一 朗

現在原稿を書いているとき、テレビでは大多数の予想に反してトランプ氏が米国大統領に当選したことを報道しています（日米関係は今後どうなるか不安ですが）。テレビ画面をみていると、ニューヨークのマンハッタンの見慣れた場所・風景が多く映し出されていました。マンハッタンでの体験は不安と淋しさと胸が押しつぶされそうになった時期もありましたが、「日本人の誇り」と「根性」で何とか乗り切ってきました。無事日本に帰国し、改めて振り返ってみると、大変貴重な時間と空間を過ごしてきたと実感しています。

このたび、ニューヨークのマンハッタンにあるHospital for Special Surgery (HSS) の足の外科部門での約1年半の臨床見学留学を終え、2016年8月より徳島大学に復帰し、光栄にも足の外科を担当させていただくことになりま

した。マンハッタンを地図で見ると、HSSはセントラルパークの右横のアップパーイストにあり、周りは住宅街で治安はよいところです。しかし、ここマンハッタンでは物価、食費、住宅費などすべての生活費は想像をはるかに超え高額で、留学前にこつこつ貯めていた資金も帰国時には完全に底をついてしまいました（当時は1ドル120円程の円安でした）。

HSSは世界で初めて人工膝関節置換術をしたことで有名で、全米で1番の評価を得ている整形外科専門の病院です。肘靭帯再建術前のレンジャーズのダルビッシュ有選手が右肘の状態のセカンド・オピニオンを聞きに来たこともあり、またヤンキースの田中将大選手も2015年10月に右肘の鏡視下遊離軟骨除去術を受けました。ここには世界中からとても優秀な多くのフェローが約3か月の期間代わる代わる来ていま



す。また、米国の若きレジデントにとってもHSSで研修を受けることは大変光栄なことで、HSSで1年の研修を積むための試験は大変倍率が高いと聞いております。

私は世界で最も有名な足の外科医であるケネディー先生に師事し、世界中の多く優秀なフェロー達と外来見学、手術見学、手術前後のプレゼンテーション、抄読会などをともにを行い、切磋琢磨してきました。おかげで、2016年3月に米国のフロリダ州オーランドで開催された整形外科の中で世界最大規模かつ最も権威のある学会 American Academy of Orthopaedic Surgery (AAOS) で2題も口演発表するという大きな成果をあげることができました。

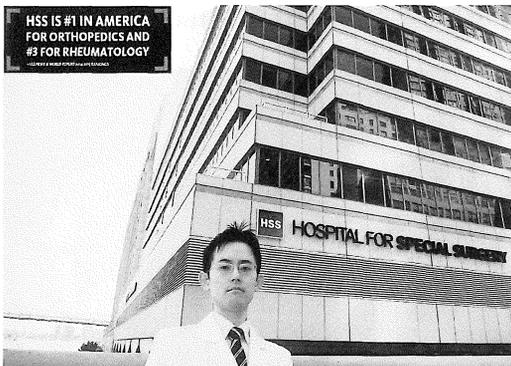
AAOSでの発表の際は、西良教授、長町先生、千川先生、大道先生が会場まで足を運んでいただいた上、美味な食事を御馳走になりました。

た、ありがとうございました。また、AAOSに引き続いて開催されたORSに来られた酒井先生、浜田先生、高田先生、佐藤先生、合田先生、宮城先生、和田先生とともに夕食を一緒にすることができ、大変楽しい時間を過ごすことができました、ありがとうございました。2015年の春には松浦先生、高田先生がニューヨークを訪問していただき、色々とお励ましていただき、先輩・同門のありがたさをしみじみと感じました、ありがとうございました。

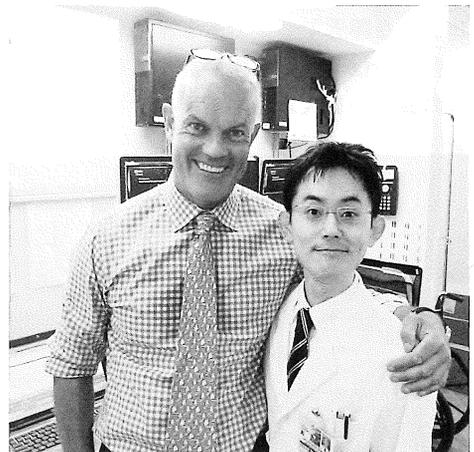
最後になりましたが、世界一との評価のある整形外科病院で、著名な足の外科医のもとで、約一年半も臨床見学できたことは私にとっては宝であり、大変多くのことを学ぶことができました。異国で生活することは日本と違い色々な困難が多くあり(特にマンハッタンでは)、また仕事でも思うようにいかないことがほとんどです。しかし、勉強になることも沢山あり、大変有意義な約一年半の留学生活でした。人手が足りない中で、このような貴重な機会を与えてくださった西良教授、医局ならびに同門の諸先生方には大変感謝しています、心よりお礼申し上げます。今後は徳島大学整形外科教室に貢献できるように頑張るつもりですので、まだまだ未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願ひ申し上げます。



HSSの外観(上は日中、下は夜間)



HSSの前にて



Kennedy先生と